

2010 年度秋学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	社会福祉学科
担当科目	社会福祉基礎演習Ⅰ	

<秋学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

私が担当させていただいた武田先生クラスでは、クラスのみinnと話し合った結果、秋学期は輪読をすることになった。みんなで決めた本は、「悩む力」と「ルポ貧困大国アメリカ」だった。

「悩む力」の輪読では、身近ではあるが普段あまり意識することのない問題(働くということ、お金について等)についてみんなで考えることができたと思う。問題を意識し、深いところまで考えることができたのではないだろうか。

「ルポ貧困大国アメリカ」の輪読では、内容が難しいということもあり、少し苦戦しているように感じた。アメリカの貧困に対する政策やこれまでの歴史、そして現在の政治の在り方などを理解していなければ深く話し合うことができない内容だったように感じた。発表者は、本を要約するだけでなく、一つ一つの言葉の意味を理解していなければならないということを学ぶことができたのではないかと思う。

ディスカッションでは、春学期よりもそれぞれの個性を見ることができたのではないかと思う。武田クラスでは、「一日一言」をモットーに春学期から授業を展開してきた。春は指名されて答えるという形が多かったが、秋学期になり、自ら発言してくれる人が増えたように感じた。みんな素直な意見を持っているのだから、口にして伝えるということが大切だと思った。今後の授業で、ディスカッションをする機会がたくさん出で来ると思う。その時は自信を持って自分の考えを発言してほしいと思った。

秋学期の全体的な感想としては、春学期よりも穏やかな空気で授業が進んでいったということである。発言の増加、みんなの表情から、クラス全体の緊張感もちょうどよい具合で保たれていたのではないかと思う。クリスマスパーティの提案などもしてくれてとても嬉しかった。

私自身の反省は、毎回の輪読の内容を私もきちんと予習しておくべきだったなと思う。授業の主体は1回生のみinnであるが、サポートできるだけの知識などはある程度持つておくべきだったと思った。

最初は緊張や不安もあったチューターでしたが、先生方やクラスのみinn、そして GP 担当の山木さんのおかげでとても充実した楽しい時間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

<今後のチューターまたは先生への提案>

春学期の初めに、各自興味のあることを調べてきて発表するという形式はとてもよかったと思いました。自分が何に興味があるのかを自己覚知できたと思います。しかし、いきなりの発表は、まだ大学入りたてのみinnには大変だったのではないかと感じたので、チューターが例として一度してみても良いと思いました。発表の要領を少しでもわかっていたほうが聴き手にも伝わりやすいと思いました。また、福祉の分野が固定観念化してしまわないようにもっと広い分野を取り上げてもらえたら嬉しいです。多くの選択肢から今後自分がどのように福祉とかかわっていくかを考えていてもらえる機会もみinnに与えてもらえたらなと感じました。